



「はしか」＝「麻しん」の患者報告数が、今年になってから 200 人を超えました。この 10 年で最多のペースになっています。患者が確認された地域も 22 都道府県にわたります。

平成 27 年 3 月 27 日世界保健機関西太平洋事務局は過去 3 年間にわたって日本国内には土着の麻しんウイルスは存在していないとして我が国が「麻しんの排除状態にある」ことを認定しました。かつては毎年春から初夏にかけて流行がみられていましたが、排除後は、海外からの輸入例と、輸入例からの感染事例を認める状況となっています。

### 麻しんとは

麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。その感染力は強く、1 人の発症者から 12～14 人に感染させるといわれています。

症状 典型的な麻しん発症例では、感染後 10～14 日間の潜伏期を経て、以下の経過をたどります。

(1) カタル期：38℃前後の発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が出現します。経過中に頬粘膜にコプリック斑が出現します。

(2) 発疹期：39℃以上の発熱、頭頸部より発疹が出現して全身に広がります。

(3) 回復期：カタル期が最も感染力が強い時期をなっており、カタル期に麻しんであることに気づかず行動することが、感染を広げる原因となります。

肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者 1000 人に 1 人の割合で脳炎が発症するとされています。死亡する割合も、先進国であっても 1000 人に 1 人とされ

ています。その他の合併症として、10万人に1人と頻度は高くないものの、麻しんウイルス感染後、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる中枢神経疾患を発症することもあります。

## ワクチンについて

麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみでは予防できません。麻しん予防接種が最も有効な予防法といえます。また、麻しんの患者さんに接触した場合、72時間以内に麻しんワクチンを接種することで、麻しんの発症を予防できる可能性があります。接触後5、6日以内であれば、 $\gamma$ -グロブリンの注射で発症を抑える可能性があります。

定期接種の対象者だけではなく、医療・教育関係者や海外渡航を計画している成人も、麻しんの罹患歴がなく、2回の予防接種歴が明らかでない場合は予防接種を検討してください。

## ワクチン接種をした方がよい人は？

定期接種の対象年齢の方々（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は、積極的勧奨の対象です。

平成12年4月2日以降に生まれた方は、定期接種として2回の麻しん含有ワクチンを受ける機会がありますが、それ以前に生まれた方は、定期接種として1回のワクチン接種があった、もしくは定期接種の機会がなかった方となります。そのため、麻しんにかかったことがなく、2回の予防接種を受ける機会がなかった方で、特に医療関係者や児童福祉施設等の職員、学校などの職員など、麻しんにかかるリスクが高い方や麻しんにかかることで周りへの影響が大きい場合、流行国に渡航するような場合は、2回目の予防接種についてご相談ください。

参考・引用 厚生労働省：麻しんについて 感染症・予防接種ナビ：麻しんとは